



令和4年度(2022年度)

学校案内

高等学校
制

究理創造

和親協同

全誠励業



宮城県気仙沼高等学校



あたりまえのことに心を込めて 学び続ける意思と行動力ある気高生へ

- あたりまえのことに心を込められる気高生を育てます
- 社会を生き抜くための基盤となる「学び続ける意思と行動力」ある気高生を育てます
- 質の高い授業の提供により、高い志の実現をめざす気高生を育てます
- 地域理解教育と国際交流によって、地域愛と国際的視野を併せ持つ気高生を育てます
- 体系的なキャリア教育によって学習意欲を高め、高い志を抱く気高生を育てます
- 文武両道、全職員一体となる指導、先輩による後輩の導きにより、主体性ある、集団への帰属意識を持った、精気と覇気に溢れる気高生を育てます

校章



校訓

きゅうり そうぞう
究理創造
わ しんきょうどう
和親協同
し せいいいぎよう
至誠励業



教育目標

- I 新しい時代に対応できる学力の形成を図り、創造的な能力の啓発に努め、国家及び社会の形成者としての資質を養う
- II 心身を鍛え、豊かな情操と協同の精神を培い、個性の伸長を図る
- III 地域の自然や文化を尊び、国際的視野に立ち、志の実現を自ら目指し学び続ける人材を育成する

沿革

- | | |
|--------|--|
| 昭和 2年 | 宮城県気仙沼中学校設立が認可される |
| 昭和 23年 | 宮城県気仙沼高等学校と改称され、同年開校式が挙行される |
| 平成 14年 | 宮城県教育委員会より気仙沼高校と鼎が浦高校が統合されることが発表される |
| 平成 16年 | 宮城県教育委員会より、統合校の校名が「宮城県気仙沼高等学校」と発表され、校章・校訓・制服が制定される |
| 平成 17年 | 宮城県気仙沼高等学校開校式が挙行される |
| 平成 18年 | 宮城県教育委員会より、進学重点校学力向上事業の指定を受ける |
| 平成 20年 | 気仙沼市教育委員会より、気仙沼ESDに指定される
ユネスコスクールへの加盟が認定される |
| 平成 23年 | 東日本大震災により、学校敷地内の各種施設が避難所として提供される
同年9月末、避難所としての提供は終了する |
| 平成 28年 | 文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定される |
| 平成 30年 | 気仙沼高等学校と気仙沼西高等学校が統合される
第9回ESD大賞において、最高賞である「文部科学大臣大賞」を受賞する |

質の高い授業を通じ、 高い志の実現を目指す気高生へ

◎授 業…45分授業を1日7コマ実施

■令和4年度入学生 教育課程表（予定）（数字は1週あたりの単位数）

1年	現代の 国語	言語 文化	公共	数 学 I	数学 A	物理 基礎	生物 基礎	体 育	保健	音楽I 美術I	英 語 コミュニケーションI	論理・ 表現I	家庭 基礎	情報 I	地域・社会 研究	総合的な 探究の時間	LHR
	2	2	2	4	2	2	2	3	1	2	4	2	2	2	1	1	1

2年 創造人文 類型	論理 国語	文学 国語	古典 探究	地理 総合	歴史 総合	倫理	数 学 II	数学 B	地学 基礎	体育	保健	英 語 コミュニケーションII	論理・ 表現II	課題研究	総合的な 探究の時間	LHR
	2	3	3	2	2	2	4	2	2	2	1	4	3	1	1	1

2年 創造理数 類型	論理 国語	古典 探究	地理 総合	歴史 総合	数 学 II	数学 B	化学基礎 (1・2期)	化学 (3・4期)	物理 生物	体育	保健	英 語 コミュニケーションII	論理・ 表現II	課題研究	総合的な 探究の時間	LHR
	2	3	2	2	5	2	2	2	2	2	1	4	3	1	1	1

3年 創造人文 類型	論理 国語	文学 国語	古典 探究	政治・経済	世界史探究 日本史探究 地理探究	(仮) 総合数学 (仮) 実践数学	数学C (仮) 教養語 美術II 音楽II	(仮) 総合生物 (仮) 現代英語 フード デザイン	(仮) 総合地学 化学基礎 情報 処理	体育	英 語 コミュニケーションIII	論理・ 表現III	総合的な 探究の時間	LHR
	2	2	2	4	5	3	2	2	2	2	4	3	1	1

3年 創造理数 類型	論理 国語	古典 探究	地理探究 日本史探究 政治・経済	数 学 III (仮) 総合数学	数学 C	化 学	物 理 生 物	体育	英 語 コミュニケーションIII	論理・ 表現III	総合的な 探究の時間	LHR
	3	2	4	5	2	4	4	2	4	3	1	1



海を軸とした地域理解・国際交流を通じ、 地域愛と国際的視野を持つ気高生へ

目標となる資質・能力を具体化し、それらの育成に向けて多様な場面・段階で明確な評価規準のもと各種活動が実施されている。

学校設定科目

「地域社会研究」(1学年共通 通年)

ね ら い：地域の海を素材として、多様な地域課題を理解するとともに、科学的探究の各段階の手法を身につけながら、批判的・科学的思考力、プレゼンテーションする力を中心とするコミュニケーション力を獲得する。

活動内容：講話や研究スキルについての学習を経て、研究テーマを決定。その後班ごとに担当者や大学のアドバイザーによる指導や評価を受けながら活動を進める。学校内にとどまらず、大学や各専門機関、地域へ実際に足を運び知見を得るフィールドワークも実施する。学年発表会で全員が発表。希望者や優秀発表班は他の発表会へも参加する。



「課題研究Ⅰ・Ⅱ」(2・3学年創造類型 通年)

ね ら い：グローバル課題「海洋問題」を探究する。1学年で研究を重ねた地域の課題を発展させ、グローバルに思考するための批判的思考力・科学的思考力、総合的思考力・未来的思考力を育成しながら、学び続ける意志と行動力を育み、「新しい時代に対応出来る学力」の形成を図る。

活動内容：論理的思考法や各種データの扱い方のガイダンスを経て、研究テーマを確定する。その後、予備調査や研究室訪問を実施。大学の先生による研究のアドバイスを得て、専門的な学びを深める。ポスター作成・発表を経て、最終的には論文作成を行う。年間を通じ、各種発表会や論文コンテストへの参加も行う。評価はルーブリック表に基づき実施され、観点別の能力を測る。



国外交流・異文化理解促進

English Cafe (通年)

ね ら い：授業や授業以外の諸活動に加え、さらに外国語を使う機会を増やし、外国語学習に対する動機付けへつなげることを目指す。

活動内容：ALT、海外交流アドバイザーとの日常会話や社会問題、時事問題等の会話。

C-cube (通年)

ね ら い：自主参加形式である校内の活動。「C」で始まる3つのコースを軸として、英語運用能力の基盤作り・活性化を各方面から目指す。

- 活動内容：・Career Course (キャリアコース)
活動例…各種外部試験に向けた講習等への参加。
・Cross-culture Course (異文化理解促進コース)
活動例…海外の学校やネイティブスピーカーとの交流。
・Creation Course (創造力向上コース)
活動例…英語を用いた実践的な表現活動。



英語コンテスト (10月)

ね ら い：英語運用能力を実際に発揮する場。パフォーマンス評価等を導入して新たな視点から能力を測る。

活動内容：運営・実施に生徒が関わり、積極的な行事への参加がみられる。コンテスト当日は外部からも審査員を招き、パフォーマンス評価を活用した審査が行われる。教員にとっても、これまでの英語指導の振り返りと今後のあり方を検討する重要な機会となっている。



台湾研修・オンライン交流会

ね ら い：台湾における課題研究活動を通じ、異文化理解や語学力向上を目指す。

活動内容：SGH (スーパー・グローバル・ハイスクール) 事業の一環として、海洋問題、特に水産資源や海洋自然環境、ジオ環境 (地質・歴史・文化資源)、防災対策において、気仙沼・日本との比較研究を実施する上で極めて適する地域である台湾を訪問し、異文化理解や語学力の向上を図ることはもとより、現地の大学での研究発表や同世代との意見交換、現地調査によって、グローバルな視点からの思考力や多様性、行動力の育成を図っている。英語によるコミュニケーションの重要性を感じることもでき、学習意欲の向上に与える影響は大きいものとなっている。



東日本大震災復興プログラム

防災教育

ね ら い：災害発生時に自ら考え行動できる人材の育成を図る。

活動内容：自ら考えることに主眼をおいた防災ワークショップ、災害時の行動力を養う防災訓練、防災リーダーを育成する生活防災委員会の活動、震災の記憶を受け継ぐみやぎ鎮魂の日にかかる集会行事、この他にも教科横断的な防災学習の取組を学校として推進する。

志教育

ね ら い：「総合的な探究の時間」を中心に実施。教科横断的な知識を活用し、集団や社会における自己の果たすべき役割を考え、さらに“価値の高い生き方”や“自己を活かす生き方”等を探求する進路学習を行う。

活動内容：「総合的な探究の時間」ではジブラボを活用した自己理解、学問・職業探究、小論文講演会や先輩の合格体験談を聞く会等を実施する。その他、地域清掃や被災地への支援物資の発送やボランティア支援を行う。



地方創生につながる学習

気仙沼市やNPO法人が主催する地方創生に関わるイベントに積極的に参加する。また、ユネスコスクールとして外部機関との連携を図りながら“地方創生”と“探究型学習”とを関連づけたESD (持続可能な開発のための教育)に取り組む。

文武両道 生徒と先生が一致団結し、 精気と覇気に溢れる気高生集団へ

◎各種行事…生徒が主体となり実施し、クラス・学年・学校全体の一体感を向上

◎部 活 動…文武両道のもと、それぞれの部活動が各種大会や作品・パフォーマンス披露の場で実力発揮



- 運動部 硬式野球部、軟式野球部、バスケットボール部、バレーボール部、ソフトボール部、バドミントン部、陸上競技部、サッカー部、テニス部、ソフトテニス部、弓道部、卓球部、フェンシング部、柔道部、剣道部、空手道部（16部）
- 文化部 吹奏楽部、マンドリン部、写真部、合唱部、演劇部、茶華道部、自然科学部、文芸部、将棋・囲碁部、ダンス部、軽音楽部、美術部、調理部、情報部、社会福祉部（15部）

※部によっては、部員数が著しく少ないなどの理由で、今後、統廃合されることもあり得ます。

部活動について

《運動部》【令和2年度実績】

■陸上競技部	
(女子) 県総体（代替大会）	円盤投 第6位 東北大会出場 やり投げ 第2位 東北大会出場 円盤投 第8位 やり投げ 第4位 東北大会出場
県新人大会	5000m 第7位 800m 第7位
(男子) 県新人大会	
■テニス部	
(男子) 県高体連テニス専門部夏季強化大会	団体3位入賞
(女子) 県新人大会	団体3位入賞
■フェンシング部	
(男子) 県総体	団体 第2位、個人フルーレ 第2位、第3位、個人エペ 第1位
県新人大会	団体 第2位、個人フルーレ 第2位
全国大会	個人フルーレ 出場、個人エペ出場
(女子) 県総体	団体 優勝、個人フルーレ 第2位、第3位、第5位、第7位、 個人エペ 第1位、個人サーブル 第1位、第3位
県新人大会	団体 第2位、個人フルーレ 第3位
北海道・東北選抜予選	団体フルーレ 優勝
全国大会	個人エペ 第3位、個人フルーレ 出場、個人サーブル 出場

《文化部》

■吹奏楽部	
宮城県吹奏楽コンクール	高等学校の部 銅賞
宮城県アンサンブルコンテスト	木管三重奏 銀賞、木管七重奏 銅賞
■自然科学部	
宮城県高等学校生徒理科研究発表会	地学部門 優秀賞
サイエンスキャッスル2021東北大会	優秀賞
■美術部	
宮城県高等学校美術展	奨励賞
高校生国際美術展	佳作
■調理部	
宮城県高校生地産地消お弁当コンテスト	優秀賞
■将棋・囲碁	
全国高等学校将棋選手権宮城県予選大会	女子個人 第3位
■演劇部	
宮城県高等学校演劇コンクール北東地区大会	優良賞
■文芸部	
宮城県高等学校文芸作品コンクール	短歌部門 入選、文芸部誌部門 入選
全国高等学校文化連盟北海道・東北文芸大会	短歌、文芸部誌 参加
全国高校生短歌大会（短歌甲子園）	団体ベスト8



4月 April	入学式 課題考査 PTA総会・授業公開	10月 October	芸術鑑賞会 運動祭 PTA教育講演会 英語コンテスト(1・2年)
5月 May	本吉地区支部総体 春季生徒総会 進路ガイダンス(3年)	11月 November	秋季防災訓練 秋季生徒総会 第3期考査
6月 June	宮城県高校総体 春季防災訓練 第1期考査	12月 December	GTEC受験(1・2年) 修学旅行(2年) 台湾研修(2年) 冬期課外講習(1・3年) 学習合宿(2年)
7月 July	球技大会 課題研究Ⅱ・総合的な探究の時間 最終発表会 本吉支部総合文化祭 三者面談・授業公開 夏期課外講習 進路講演会(2年)	1月 January	課題考査(1・2年) 課題研究Ⅰ・総合的な探究の時 全体発表会
8月 August	夏期課外講習(3年) 6校合同学習合宿(2年) 課題考査(1・2年) 気高祭(文化祭)	2月 February	第4期考査 生徒会送別会
9月 September	進路講演会(1年) 授業公開 第2期考査	3月 March	卒業式 小論文講演会(2・3年) 春期課外講習(2年)

※新型コロナウイルス感染症の影響で行事変更の可能性あります。

先輩の声

気仙沼高校は、勉強や部活動など目標を達成するために全力で取り組む生徒が多い学校です。また、目標達成、進路実現のための機会や環境が整っているところも魅力です。さらに、行事や探究活動にも全力で取り組むという点も強みです。私自身、仲間との絆を深めたり、思考力や相手に正確に伝える力を身につけたりなど、貴重な体験を通して様々な能力を培うことができました。高校生活はつらいこともありますが、頼れる友人、先生方の支えもあり、毎日が楽しく充実しています。皆さんもぜひ、思い出に残る高校生活を送ってください！



3年2組
伊藤 壮汰

高校生活といえど何でしょうか？勉強や部活、遊び・・・人それぞれだと思います。しかしもう1つ、「課題研究」も醍醐味といえます。

テーマはなんでもあり、自分の興味関心に積極的に向き合う貴重な機会です。長期間取り組むため、根性や行動力、分析力などがりますが、その経験が今後の糧となります。

究めることは視野の拡大、新たな自分の創造に繋がります。あなたも研究を通して、日々の生活をアップグレードしてみませんか。



3年4組
菅原 華

気仙沼高校では、文武両道のもと、高い志を持って充実した学校生活を送ることができます。私はフェンシング部でインターハイ優勝を目標に、仲間と切磋琢磨しながら練習をしています。高度な指導を受けられる環境があるため、高い目標に挑戦することができます。学習面では、志望校合格に向け、隙間時間を活用し、効率良く学習をしています。大きな目標に向かい、努力することは大変ですが、とても楽しく充実しています。



3年6組
小松 ころも

体系的なキャリア教育を通じ、 高い学習意欲と志を抱く気高生へ

- ◎進路指導…高い志の育成を目指したカリキュラムの実施
- ◎学習環境…図書館等の学習室完備 充実の進路参考資料
- ◎通常授業外…夏期・冬期・春期休業中、平日の早朝・昼休み・放課後実施の課外講習
年間を通じて実施される土曜授業 各種外部模試の実施
外部講師の講演会等による幅広い視野の養成

進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	R3	R2	R1
国公立大学	32	33	40
国公立短大	3	1	6
私立大学	102	100	97
私立短大	16	10	12
専各学校	61	61	78
就職	16	6	26
その他	7	23	17
卒業生計	237	234	276

主な進路先(令和4年3月卒業生),()内は人数

<国公立4年制大学>

東北大(1)、北海道教育大(2)、弘前大(2)、岩手大(6)、宮城教育大(3)、山形大(3)、茨城大(1)、宇都宮大(1)、埼玉大(1)、東京学芸大(1)、新潟大(2)
国際教養大(1)、宮城大(4)、青森県立保健大(1)、青森公立大(1)、岩手県立大(2)

<私立大学>

早稲田大(2)、学習院大(2)、明治大(3)、立教大(5)、中央大(3)、法政大(5)、日本大(5)、東洋大(10)、駒澤大(2)、専修大(1)、大東文化大(1)、東海大(1)、國學院大(3)、国士館大(2)、成蹊大(1)、成城大(4)、獨協大(6)、東北学院大(36)、東北福祉大(29)、石巻専修大(7)、尚絨学院大(5)、仙台大(2)、仙台白百合女子大(2)、東北医科薬科大(2)、東北工業大(13)、東北文化学園大(2)、宮城学院女子大(14) 他

<専修各種学校>

気仙沼市立病院附属看護専門学校(8)、東北防災看護専門学校(1)、慈恵柏看護専門学校(1)、仙台医健スポーツ専門学校(4)、仙台大原簿記情報公務員専門学校(10) 他

<就職>

国家公務員税務職員、宮城県職員、仙台市職員、気仙沼市役所、南三陸町役場、海上保安大学校、株式会社七十七銀行、新みやぎ農業協同組合、気仙沼中央自動車学校、株式会社ニチイ学館 他

卒業生の声

「Where there is a will, there is a way.」

国際教養大学 国際教養学部 佐藤 快晴

Where there is a will, there is a way.

中学の部活の顧問の先生に送っていただいたこの言葉を強く実感した「気高ライフ」でした。

私の高校での目標は、硬式野球部に入って私立を倒すことと第一志望の大学に合格することでした。部活動では幸運にも仙台育英など宮城を代表する私立高校と戦わせてもらえました。戦うたびに大きな差を見せつけられ跳ね返されながらも、どうすれば倒せるのかみんなで必死に考え、自分のできることを全力で取り組んできました。明確な目標設定とそれを達成するための具体的な計画、継続した実践と反省、そして目標の再設定、この繰り返しでした。試合には負けてしまったものの、自分の成長を実感でき、これからの私の糧となる貴重な経験ができました。受験勉強においても、志望校合格への壁は高く、不安や苦しさを感じましたが、部活動での経験が生かされ逃げずに自分がやるべきことに集中して取り組むことができました。結果的に、部活動での「目標」達成に向けた過程での人間的成長が「進路」達成を大きく後押ししてくれたと強く感じています。ですから、私がもし新入生の皆さんに何か一言を送るとしたらこの言葉「Where there is a will, there is a way.」を送りたいと思います。気仙沼高校には、ともに悩みながら戦ってくれる志の高い友人と、親身になって一緒に考え、本気で生徒の目標実現や進路達成をサポートしてくださる先生方がいます。まずは大きな「志」を持って一歩踏み出してみたいと思います。周囲の環境に頼りながら果敢に挑み続ける三年後、皆さんの夢の実現への「道」が拓けていることを願っています！

「生きる力」

新潟大学 医学部 保健学科 放射線技術科学専攻 藤田 亜美

気仙沼高校では自分の手で進路を実現させることができる環境が整っていて、高校で学んだことが今後の人生に大きく貢献すると感じています。

まず、親身に生徒の相談に耳を傾け、的確なアドバイスを下さる先生方がいます。先生方は成績や進路目標だけでなく、性格や得意なことに注目し生徒一人ひとりにあった提案をしてくださいます。高校時代はこれからの人生の分岐点であり、在学中にも将来を決める選択がたくさんあります。私自身も類型選択、進路選択などでたくさん悩みましたが、アドバイスのおかげで私は様々な選択を後悔のないように判断することができました。不安になったときに遠慮なく頼れる先生方の心強さは並大抵ではありません。

そして、気仙沼高校で特に力を入れているのが全学年で行われている研究活動です。自分や周りの社会を見つめなおし、解決の求められる自分で設定したテーマについて研究し、発表をしたり論文を提出したりします。調べる力や主体性、協調性が養われるのはもちろんのことですが、問題に対して自分で考え、答えを出す問題解決能力が身についたと思います。この能力は学校での勉強をより効率的で深いものにすることに加え、これからの人生を生きていくうえでも必須で自分のスキルアップに大いに役に立つと思います。

このほかにも、気仙沼高校には生徒それぞれが目指す道に進める環境が整っています。3年間を充実したものにできるかは皆さんの行動次第です。ぜひ、気仙沼高校に入学して高校でたくさんの大切な学びを得て、今後を生きる力を育ててください。応援しています。

「充実した日々」

税務職員 梶原 海凜

気仙沼高校では一人一人の特色を伸ばし、様々な事に挑戦できる環境が整っています。

学校設定科目の地域社会研究や課題研究では、自分が興味のある事柄についてとことん追求することができます。フィールドワークやプレゼンテーション、大学の先生からの指導など本格的な研究活動を通して課題解決意識を伸ばすことができ、とても貴重な体験となりました。

進路面では、進学、就職どちらも進路に合ったサポート体制が整っており、進路活動に集中することができます。私は就職希望でしたが、外部の講師を招いた講習会や定期的な模擬試験、担当の先生による面接指導など丁寧なサポートのおかげで無事目標を達成することができました。

気仙沼高校は、行事も豊富です。企画から運営まで実行委員会を中心に生徒全員が一丸となって行事を作り上げていきます。また、文武両道を目指し勉強だけでなく部活動にも力を入れて取り組んでいます。運動部、文化部共に種類が豊富で、今までやってきた事を続けることも新しい事に挑戦することもできます。私は高校からソフトボールを始めましたが、最初は初対面でお互いぎこちなかった部員は大切な仲間になり、共に苦楽を乗り越えた日々は一生の宝物になりました。

生徒一人一人が高い目標を持ち、それを先生方が親身になって応援してくれ、友と切磋琢磨して困難を乗り越えていく。そんな日常が気仙沼高校には溢れています。ぜひ、皆さんも気高生の一員となり充実した高校生活を送ってみませんか。

スーパーグローバルハイスクールネットワークとは



将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成するため、グローバルな社会問題を発見、解決できる人材の育成に関する教育課程の研究開発を、文部科学省の指定を受けて行ってきた高等学校等が、期間終了後に再認定を受けて、国内外の大学や国際機関等との連携により、質の高い教育課程等の開発・実践等に継続して取り組むとともに、認定校間の情報交換・交流等を行います。

本校では平成28年度から5年間、SGHの指定を受け、各種の活動や取り組みを行ってきましたが、これまでの成果を生かし、今後も発展的に継続していきます。

構想概要図

海を素材とするグローバルリテラシー育成 ～東日本大震災を乗り越える人材をめざして～

目的 海洋問題に係る協働型学習を中心とするプログラムによりグローバルリテラシーを育み、地域から世界に直接アクセスし、対話によって合意を形成し行動できるグローバルリーダーを育成する

海を活かす

世界の中で地域を活かす
思考力豊かな人材

海でつながる

異文化を理解し他者と協働できる
コミュニケーション力 豊かな人材

海と生きる

大震災の経験を活かして社会に貢献し
行動力豊かに未来に生きる人材

グローバルリテラシー

思考力 コミュニケーション力 多様性・協働性・行動力

平成30年度

第9回ESD(持続可能な開発のための教育)大賞において、 最高賞である「文部科学大臣大賞」を受賞

ESDとは…

Education for Sustainable Developmentの略称。現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。

令和5年度入試日程

選抜日 令和5年3月6日(月)

宮城県気仙沼高等学校



〒988-0051 宮城県気仙沼市常楽130
TEL 0226-24-3400
FAX 0226-24-3408
<https://kesennuma-h.myswan.ed.jp/>

【主な交通機関】JR気仙沼線BRT「不動の沢駅」
下車徒歩10分

